

石狩浜における海岸保全に向けた交流・情報共有の場の創造

北海道大学大学院 環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース
武田 尚太

北海道中央部日本海に面し、石狩川河口から石狩湾新港までの約 7km の石狩浜は、人口 190 万人を有する札幌市に隣接していることから、毎年多くの海岸利用者が訪れ、様々な形態でのレクリエーション利用が見られている。石狩浜は区域によって 3 つの行政の海岸管理者により管理されている。管理内容については管理者によって異なっており、なかでも三線浜と呼ばれる海岸区域は自由利用であり、夏期の海水浴シーズン中では、バギー車による海浜植物のかく乱、放置ごみによる景観の悪化といった海岸利用者の無秩序な利用が問題視されている。

筆者は、こうした石狩浜の現状をふまえ、現場で活動する市民団体や NPO、海岸管理者（石狩市）、そして専門家に聞き取り調査を行い、それぞれが抱える問題意識を明らかにした。さらに、聞き取り調査を行った石狩浜の利害関係者と共に勉強会（計 3 回実施）および、多くの人と話し合える場としてフォーラム（2013 年 11 月 23 日）を実施した。最後に、勉強会からフォーラムの過程を通じて、石狩浜の関係者の意識変化を捉えるために、事後の聞き取り調査を行った。

石狩浜における利用者マナーに関する啓発活動は、市民団体や NPO、行政により展開されてきたが、現状としては、マナーは改善されていない。また、活動の継続に不安を抱えている活動団体もある。さらに、海岸管理の方針や海岸における現状・課題などが市民団体と行政の間での情報共有は必ずしもできていない。

以上をふまえ、「交流・情報共有の場」の創造として、勉強会を実施することにした。勉強会では、フォーラム実施に向けて、意見の出し合い、協働作業を体験してもらった。その中で筆者は、参加者はそれぞれ石狩海岸に関して様々な想いを抱いているが、その想いを多くの人に伝える機会がこれまであまりなかったのではないかと感じた。また回を重ねるごとに、参加者が少しずつ楽しんでいる様子が実感できた。フォーラムでは 29 名が参加し、地域別でみると、石狩市 13 名、札幌市 15 名、小樽市 1 名であった。終了後のアンケートでは 26 名（無回答：3 名）が「引き続き開催してほしい」と回答していたように、フォーラム継続に向けた高い評価を得た。

石狩浜の関係者 9 名に行った事後の調査では、勉強会およびフォーラムの取り組みは、石狩海岸の海岸保全や海岸利用の促進に向けての有効性は低いものの、自分たちが知らない人との出会いの場としては必要ということが分かった。

以上より、今回設定した「交流・情報共有の場」では、石狩浜の関係者に「新しい人との出会う機会」を提供することができたと考える。